令和３年度　No. ９

駒岡小学校だより　１月号

寅年の読書

校長　中山　正之

令和４年を迎えました。皆様のご家庭ではどのような年末年始を過ごされましたでしょうか。感染症の心配は依然として続いていますが、一年前の息をひそめて過ごすような冬休みに比べると、私自身は少しだけ明るい気持ちで過ごせたような気がします。学校では見通しの難しい日々が今年も続くと思われますが、子ども達の健康な生活を変わらずに大切にしていきたいと思います。

さて、今年の干支は「寅」です。昨年の暮れのことになりますが、この「トラ」に深く関わりのある方から鶴見区の子ども達にすばらしいプレゼントが贈られました。その方とは、プロ野球阪神タイガースの青柳晃洋（あおやぎ　こうよう）選手です。青柳選手はタイガースの主力投手として昨年大活躍をし、最多勝を記録しました。また、東京 2020 オリンピックの野球日本代表にも選ばれ、金メダルを獲得しました。サイドスロー（横手投げ）が特徴的なピッチャーで、昨年はベイスターズから５勝も挙げています。そんな青柳選手は鶴見区の出身で、かつて寺尾小学校と生麦中学校に通っていたそうです。今回、出身地の子ども達に寄附をしたいとのお申し出があり、区内の小学校 22 校と市立保育園４園に図書カードを贈ってくださることになったのです。近く本校の学校図書館に「青柳選手コーナー」を設け、購入した本を子ども達に読んでもらう予定です。コーナーにどんな本が並ぶのか、とても楽しみです。

話は変わりますが、やはり昨年の暮れ、本校に末吉中ブロック（末吉中、末吉小、上末吉小、下末吉小、駒岡小）５校の校長と担当の先生方が集まり、人権教育について話し合う会議が行われました。子ども達が、自分のことも他者のことも認め、大切にしていくために、それぞれの学校が行っている取組について意見や情報を交換し合いました。この話合いから私は、子ども達の心情を育てていくために、一人ひとりのもつ語彙を豊かにすることが大切な要素になると改めて感じました。語彙の不足から起こる子ども達のコミュニケーションの不全やトラブルを私達はよく目にします。これらを減らしていくためには、普段から言葉に多く触れさせ、意味を実感させることが大切です。私達は日々の授業や様々な活動を通して、子ども達の語彙を豊かにする努力を重ねていますが、それだけでは十分ではありません。自分から多くの言葉に接し、考える機会を持つという点で、本を読む経験も同じように大切です。そのため本校では、子ども達がいつでも本に触れられるように、学校図書館の整備に力を入れています。学校司書の田内先生をはじめ、多くの保護者の方々にも読み聞かせボランティア等でご協力をいただき、子ども達に親しみやすい環境にしています。また、先生達も授業で積極的に学校図書館を活用しています。確かに、本を一冊読んだだけで子どもの語彙が劇的に増えることはありません。しかし、読書を習慣としこつこつと読んでいくことで、その子どもが使う言葉は次第に豊かになり、情緒も育っていきます。こうした子達が増えていけば、学校全体の感受性が豊かになり、相手を大切にする人権感覚も徐々に磨かれていくのではないかと思います。本校の子ども達は学校図書館に親しみをもち、よく本を手に取ってくれるようになっています。今年はそこに、「青柳選手コーナー」も加わることになります。青柳選手のご厚意が、子ども達の生活を豊かにしてくれることを願いたいものです。

今シーズン、横浜スタジアムでベイスターズとタイガースの試合が行われ、青柳選手が登板する機会があれば、その時だけはベイスターズに強い青柳選手を応援したいと思います。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。